

## 国際連語論学会 4 月例会

日時：2017 年 4 月 15 日（土）13：30～15：00（予定）

場所：大東文化会館 K-301（東武東上線東武練馬駅より徒歩 4 分）

研究発表：高橋弥守彦「中日両言語の視点の違いについて」

### ※研究発表

ヒト：高橋弥守彦（大東文化大学名誉教授）

テーマ：中日両言語の視点の違いについて

要旨：中国語と日本語では同一のことを表現する場合であっても、表現の仕方が異なる場合がある。例えば、中国語では“打 7 折”“5 天工作制”と言うが、それに対応する日本語では [3 割引] [週休 2 日制] という。なぜ中日両言語ではこうも違うのだろうか。次の文にもその違いが現れている。

- (1) 上楼的时候，孩子说：……（『人民』88-2-98）  
階段を上がりながら、子供が言った。（同上、88-2-99）
- (2) 日上中天时他的孩子又开始哭起来了。（『人民』97-3-87）  
太陽が中天に上る頃になると、また赤ん坊の泣き声が聞こえてきた。（同上）
- (3) 喂，咱们上法院。（講読①-62）  
さあ、裁判所へ行きましょう。（講読①-70）
- (4) 他心头一热，坦荡而磊落地上了车。（『人民』90-8-103）  
彼は胸が熱くなり、つらさを振り払うようにパッと車に乗り込んだ。（同上）
- (5) 老张的事迹上了报了。（『八百詞』p. 302）  
張さんの行った立派な行為が新聞に載った。（同上）
- (6) 妈妈抱他上床，他还下来。（『人民』89-7-98）  
母が抱き上げて寝かせても、また起きてくる。（同上、89-7-99）

上掲の中国語の実例では、いずれも「上」＋空間詞」だが、日本語では“上”にはいろいろな訳がある。中国語では“上”だけでいいのに、それに対応する日本語では、なぜいろいろな訳があるのかについて、中日両言語の視点の角度から検討する。